

令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079700201		
法人名	医療法人 上野病院		
事業所名	グループホームあがの 北棟		
所在地	福岡県田川郡福智町上野2678番地1		
自己評価作成日	令和6年4月20日	評価結果確定日	令和6年5月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和6年5月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

薬王寺ののどかな自然の中にある環境が魅力で、入居者様ご家族様からも「良い所ですね」との声を聞くことが多いです。母体が病院だという事も強みになります。病院との距離も近く、何かあればすぐに診てもらえる事でご家族様も安心してされていると思われます。上野病院のデイケアとの連携もでき、数名の方が楽しく参加されています。職員の定着してきており、情報の共有の質が高まり、信頼感の向上にもつながっているものと信じております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体医療法人がかかりつけ医の「薬は本人を抑制するものではなく、本人が落ち着き安心できるように服用する」との説明に家族も職員も得心し、「職員が薬をすることを目的にロックをしてはならない」、「入居者はもしかして今こんな気持ちかもしれない」を根本的な考えとして、気分転換を図り気持ちに寄り添うケアを実践している。暮らしぶりや行事等の写真を多用した「あがの通信」を毎月発行し、今年から再開した運営推進会議では、写真付きで入居者の暮らしぶりや行事、BCP作成報告や介護ロボット「大ちゃん」の活用を報告し、現状の課題について率直な意見交換が行われている。全職員が所属している抑制や虐待防止委員会などで、「家族の一員として愛情を持って接し、本人のできることやできそうなことを支援する」との理念を共有し、日々実践につなげている。今後は全職員が地域の一員として役割を果たす交流再開も期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／
事業所名

北棟／グループホームあがの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	繋がられていると思う。 理念を理解し、実践につなげるよう心掛けている。家族としての思いを持ち接している。	抑制や虐待防止委員会、ミーティング時、「家族の一員として愛情を持って接し、本人のできることやできそうなことを支援する」との理念を共有し、日々実践に努めている。地域の一員として職員が役割を果たすことが課題となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にまではいっていないが、令和6年に入ってから新型コロナウイルスの感染症の制限も緩やかなものとなり、近隣の上野小学校児童の訪問や「カラオケハウスとんちんかん」の小松氏によるお誕生日会の演目の披露などをしていただいたので、これから増えていくものと思っている。	あがの通信には、近隣の小学生によるひな祭りの歌やダンスに感涙したり、誕生会に披露された地域ボランティアによるショーや手品に笑顔満載のスナップが掲載されている。介護実習生の受け入れ要請に応じ、地域敬老会の参加を予定しているが、夏祭りの復活で地域交流を願う職員もいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族等から相談があれば話をしているが、特別な機会は設けていない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和6年1月より4年ぶりに実際の会議を再開して、法令基準などの変わり目である事も併せて活発な意見を載けて、運営面でのご意見を反映させて行ける期待が持っている。	令和6年から全家族にあがの通信で運営推進会議開催を案内し、家族や地域代表、町職員などの出席で事務室で開催している。写真付きで入居者の暮らしぶりや行事、BCP作成や介護ロボット「大ちゃん」の導入を報告し、現状の課題について率直な意見交換が行われている。	運営推進会議の趣旨に沿って、ヒヤリハットや事故、身体拘束や虐待防止の取り組みの報告とともに、個人情報に留意し個人名を伏せて意見を簡潔にまとめた会議録の公表を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には町役場担当者や包括の職員の方に参加していただいているため、折をみて連絡は戴ける関係にはなっている。入居者の紹介の相談など、様々な相談を折をみて戴ける関係にはなっている。	毎月地域包括支援センターに居室情報を提供し、入居者紹介や入居相談を受けている。今年度も町主催の研修会には参加予定で、日頃から協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制防止委員会を設け、規定に従い勉強会等を行い理解を深めている。玄関の施錠については、解放しておくのが難しいためやむを得ず行っている。なお、令和5年度より虐待防止委員会を併せて設立し、これと併せて継続的に研修・会議を行っている。令和5年度の主題はドラッグロックであった。	全職員が抑制防止委員会に属し、職員ではなく入居者本位のドラッグ服用について話し合い、スピーチロックや大声はその都度注意を促し、家族の同意を得て入居者の2／3がセンサーを活用している。身体拘束に該当する具体的な11項目の周知徹底を予定している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	令和5年度より虐待防止委員会を設け、勉強会等を行い防止に努めている。上記参照されたし。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、理解に努めている。 具体的には、司法書士さんが公開しているYouTubeを観てこれを研修動画として学び、感想と意見を共有している。	4月にユニット毎に動画で成年後見制度について学習している。5月、保佐人に身上監護や財産管理を受けている方が入居予定で、制度を学ぶ好機となっている。	成年後見制度とともに、日常生活自立支援事業に関する資料の整備や研修会の開催で、制度や事業の内容やその違いを学ぶ機会を設けられ、入居時や随時に制度や事業の紹介を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定など、その都度説明を行い理解を得ている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けるなど、ご家族の要望に応えるよう努めている。 コロナ渦が続く、入居者様とご家族様との自室での面会などはまだ解除できないため、ここが課題である。	暮らしぶりや行事等の写真を多用した「あがの通信」を毎月発行し、SNSでタイムリーに動画のやり取りをする家族もあり、運営に関する意見表出を促している。新職員処遇改善加算や物価高騰に伴う食費の値上げについて家族に説明し、同意をいただく予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話をする機会はある、反映している部分もある。 北棟に於いては、上には意見を上げやすい空気があると思うので、意見は伝えやすい感覚を持っている。	定期的にユニット毎に開催しているミーティングでは、毎回率直な意見交換が行われ、夫々のユニットに主任を置き、決定した個別ケアや業務内容はまず実行と申し合わせている。軽くて座りやすいイスの購入が叶い、母体法人に事務の一括化を相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の希望や状況に合わせての勤務体制や、人手が足りない時には皆で協力するなど、働きやすい環境づくりに努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては、特に年齢や性別の制限はしていない。定年制度も設けていない。	口コミでの入職が多く、外国籍を含む19歳～78歳の男女の職員が、常勤や非常勤、日勤や夜勤のみなど、夫々の状況に応じて勤務している。介護ロボットやICTを導入し、認知症の基礎研修や実務者研修の受講を支援している。希望休が叶い、夫々の特技を活かし、生き生きと勤務できる職場作りに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時などに話をするよう取り組んでおり、令和5年度より義務化された虐待防止委員会で学習するようにしている。	職員が楽をすることを目的にロックをしてはならないと、抑制や虐待防止防止委員会で話し合い、契約書にカスタマーハラスメントによる契約解除を明記し、入居者のみならず職員の人権擁護に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	令和6年度よりリニューアルされた処遇改善加 算の事もあり、意欲ある職員には積極的に参 加できるように努める。また、令和5年度より義 務化された介護職員基礎研修の受講を該当 する職員4名に受講させた。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取組みをしている	以前はグループホーム協議会を開催し、交流 する機会を設けていたが、コロナ禍において は出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに努め ている	努めている。本人や家族から聞き取りを行っ ている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	努めている。本人や家族から聞き取りを行っ ている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等 が「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階では難しいが、本人や家族に寄り 添いながら、必要としている支援を考えるよう 努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	必要に応じて協力を求めたり、届け物があっ た時に連絡を取るなど、家族との関係づくりに 努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけたり、玄関先での面会など現状で出来る限りのことは行っている。コロナ禍も終わったので、施設長と相談のうえで自室での面会も解除となれば自室面談も再開する。	感染防止に配慮し、面会は玄関でお願いしているが、自室での面会を母体医療法人と協議していく予定である。自宅外泊、家族との受診や食事、散髪、携帯電話の使用、馴染みの訪問理美容の利用など、関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話の合いそうな人と近くの席にしたり、スタッフを交えて会話をするなど孤立しないよう支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居で契約が終了した場合でも、ご家族から相談や訪問がある時には出来る範囲で対応している。昨年に退去された方のご家族様が定期的に贈り物やBCP関係の物資を届けて下さっている例もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に合わせて、食事や入浴などを行っている	個々の職歴や趣味、家族構成を共有し、「入居者はもしかして今こんな気持ちかもしれない」を根本的な考えとして、日々思いや意向の把握に努めている。「家に帰りたい」や「淋しい」には、好きなカラオケで気分転換を図り、気持ちに寄り添うケアを実践している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りを行い、スタッフ間で共有している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人と関わり合いながら見極め、気づきがあればスタッフ間で共有している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、担当スタッフ等と相談しながら作成している	ミーティングで個別ケアを話し合い、担当職員の気づきを介護計画の見直しに繋げている。収集した物品をもとに戻したり、他の入居者の居室に無断で入室しないようにドアを閉めるなどの支援で、トラブルを防いでいる。母体医療法人のデイケアを利用する入居者もあり、デイケアと情報を共有している。	面会時などに聞き取った家族の意向やデイケアでの様子やケア内容を担当学会議で共有し、「できる事」「できそうな事」を具体的に支援する介護計画を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきなど見逃さないよう、スタッフ間で共有しながら取り組んでいる		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な方は上野病院のデイケアに通ったり、病状によっては訪問看護師のリハビリを受けている方も居られる。メンタルケアや、希望があれば買い物や散歩も一緒に行っている。レクや体操の運動も出来る範囲で行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	上述もしたが、令和6年に入ってからコロナ禍の影響が薄まったため、上野小学校児童の訪問を受けたり、「カラオケハウスとんちんかん」のお誕生日会での演目披露を戴いたりしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関への受診をおこなっている。本人同行の受診ができない時は、代理受診も行っている。母体である上野病院との連携があるため、こちら側からなるべくかかりつけ医を上野病院にして戴くよう呼びかけている。	母体医療法人がかかりつけ医の入居者が殆どで、主治医の「薬は本人を抑制するものではなく、本人が落ち着き安心できるように服用する」との説明に家族も職員も得心している。訪問看護や訪問歯科で、健康管理や口腔ケアを支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師による健康管理を行っている。その際に報告や相談をして適切な指示をいただいている。また急変時には電話にて連絡を行い、訪問や指示にて対応している。夜間時など緊急時には電話連絡をして必要な指示を戴き、場合によってはすぐに駆け付けて戴いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を取りながらお互いの情報交換を行い、入院中の様子や退院の時期などの話し合いを行い、関係を作っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から本人、家族にはお話ししている。時期を見極めて、その時期が来た時は、担当医や家族らと話し合いを行っている	入居時、医療上の必要な対応について契約書で説明している。急変に対応できる近隣の母体医療機関での看取りを希望する家族が多く、経口摂取ができるぎりぎりまでホームでの暮らしを支援し、入院後1～2日で逝去された方もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	概ね身に付けている。定期的ではないが、事あるごとに訪問看護の看護師などに教わりながら行っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は今はまだ出来ていない。避難訓練は定期的に行っており、台風や停電時には非常食を準備したり、浴槽に水を溜めるなどの対策は行っている。令和6年よりBCP計画が義務化されたため、職員の訓練が最優先と考えている。	今年度も年2回、避難訓練を予定している。母体医療法人の看護師から、感染症の最新規定や基準に基づく指導を受けている。非常時の持ち出し書面を整備し、食料品や飲料水、衛生用品を備蓄している。策定したBCPに沿った訓練を実施し、さらに現状に即した改訂を予定している。	自治会や地元消防団など地域防災に関わっている組織との情報交換や、協力体制の構築を期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いなどに気を付けて、出来る限り行っている	理念の「愛情をもって接します」を実践すべく、声の大きさやトーンに留意し、氏名で呼称している。入居者に寄り添い穏やかに声をかける最年少の外国籍の職員の姿から、日頃の実践が伺える。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に選択していただくよう心掛けている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など本人の要望に応えるなど、出来る限り希望に沿うようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を聞き入れて、なるべく取り組んでいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり食器洗いや食器拭きなど、出来る方と一緒にしている。食事形態もきざみ食やムース食、とろみを使用するなど個人に合わせて提供している。加えて、贈り物があった場合などはこれをお食事に提供している。	口腔体操や口腔ケアを励行し、個々の咀嚼や嚥下状態に応じた食形の食事を用意している。中には1時間以上かけて食事を介助する方もある。クリスマスや正月、節分などの行事食を楽しみ、誕生日は本人希望でから揚げが多く、食器洗いに勤しむ入居者もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量はチェック表を作成し、管理を行っている。一人ひとりの状態を把握し支援している。食事が摂れない時は、栄養補助食品など状況に応じて対応している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、仕上げを行っている。また週に1回、訪問歯科による口腔内のケアをしていただいている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を心掛けている。トイレに座ることが困難な方でも、2名で介助するなど安全面に配慮しながら本人の希望に沿うように支援している	「便所」と大きく掲示したトイレは、車イス使用が容易で男性専用も設置されている。夜間のみポータブルトイレの使用もあるが、トイレでの排泄を基本として職員2人体制の介助もある。排泄チェック表で、尿取りパットを便器に廃棄を防止する対応など、夫々の状況に応じて支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を付けたり、力が入りやすいよう工夫するなど取り組んでいる。便が出にくい場合には、薬などで対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する順番など出来る限り希望を聞いている。入浴を拒否される場合は無理強いせずに清拭を行うなどして対応している	ボイラーが故障し、週1回近隣の母体医療法人の個浴槽や大浴槽を温泉気分で使用している。入浴拒否や同性介助の希望はなく、週1回は清拭で代行し、来月末の修理完了を待ち望んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間など必要に応じて休息をしていただいている。安眠できるよう居室の温度調節に気を付けながら支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概ね理解している。薬の変更があった場合などは、症状の変化を見逃さないよう注意して観察を行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方には、歌番組を録画するなどして希望されるときに観ていただいたり、また食べる事が楽しみな方には、好みのお菓子などを提供するなど支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への外出は満足に出来ていないが、スタッフと一緒に庭園を散歩したりするなど出来る限りで行っている。昨年は11月に紅葉見学へ行った。	前方は麦秋となり黄金色が波打ち、後方には雄大な福知山、春はエントランス傍の桜を愛でるなど、季節の移ろいを感じながら園庭を散歩している。週1回近隣の母体医療法人の浴室に出かけるのを楽しみと話す入居者もあり、管理者はドライブも検討したいと話している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病気の症状によって、トラブルが発生する場合があるため、お金は事務所で管理している。欲しい物や必要な物があれば、預かっているお金で代理で買い物に行き購入するようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけたり、手紙を書くなど支援している。年賀状などを一緒に作成し、家族に郵送している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や玄関に季節に応じた飾りや写真などを掲示して、季節感を取り入れている。トイレは不快な臭いがしないように、誤飲などの危険が無いよう工夫して芳香剤などを使用している	玄関先の広い屋根付きのエントランスは、近隣小学生の歌やダンスのお披露めの舞台となり、入居者の写真や自己紹介付きで職員の写真が掲示され、ソファが設置された玄関は面会の場となっている。玄関正面に食堂や居間が設けられ、居間のソファで昼寝をしたり、仲良くテレビを観る入居者がある。板張りの明るく広い廊下やトイレ、洗面所は清掃が行き届いている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂は椅子、ソファを置いて、自由に過ごせるようにしている。テレビを観たり、会話を楽しんだり、居眠りされたりと毎日好きなように過ごしていただいている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自身のタンスや仏壇を持ち込まれたり、なじみの物を置いたりされる方も居られる。	木製の表札が掲示された広い居室は、ベッドやテレビ台、椅子が設置され、筆筒やテレビの持ち込みもある。無断収集した小物を窓際やテレビの前に飾った居室や、「帰ります」と職員が整理した衣類を鞆に入れる入居者もあるが、その都度居心地良く暮らせるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室などに貼紙や目印になるものを飾り、場所がわかるよう工夫している		